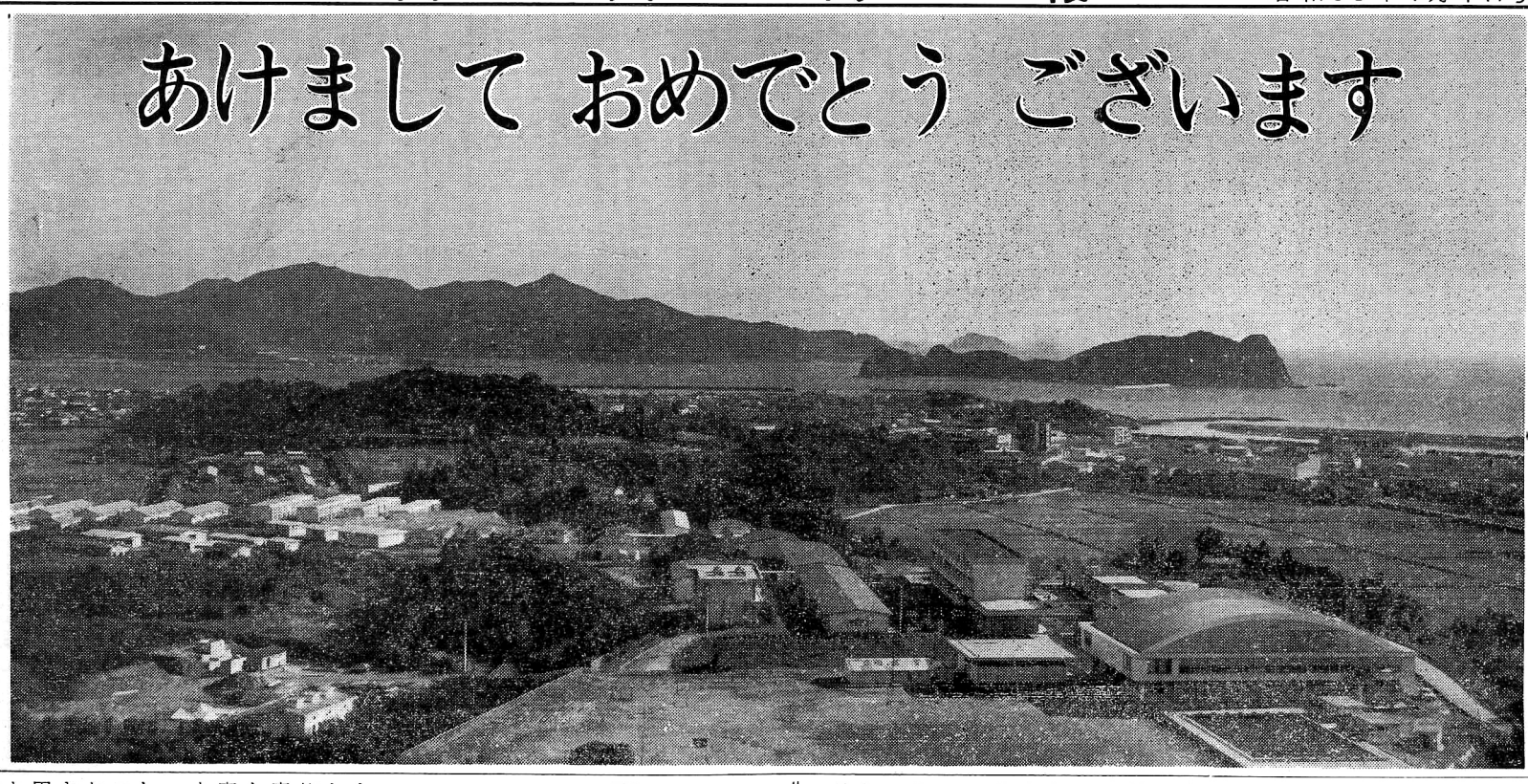
あけまして おめでとう ございます



かどがわ

町報

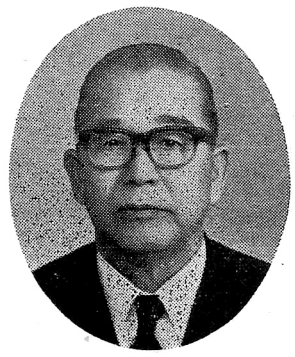
第168号

発行所
宮崎県門川町
門川町役場
電話③1140番

印刷所
宮崎県門川町
工藤印刷
電話③1143番
③2276番

あけまして
おめでとうございます
役場職員一同

年頭のご挨拶



門川町長
金丸次蔵

激動の中に迎えた昭和四十九年は、前年度よりも更に厳しい社会情勢のうちに最後には三木内閣の誕生という一大ドラマを繰り広げて、その幕を閉じたのでありますが、過ぎ去った四十九年は、人それぞれの感懐を秘めて、人によっては忘れることのできない年として、その生涯に位置ずけられたことでしょう。

皆さんにおかれましては打ち続くこの厳しい生活環境の中で悪条件を乗り越えて、ここに目出度く新春を迎えられましたことをお慶び申し上げますとともに、本年もいよいよご多幸でありますよう祈念してやみません。

さて三木内閣の誕生は、人の意表を突いたものでありましたが、発足後間もない新内閣の政治力は未知数とは申しながら、国民の政治に対する不信感が強烈な今日、その清潔な人柄の故に、信頼される政治モラルの確立と、当面する緊急課題である物価安定及びインフレー解消に対する国民の切なる願望に対し、何としてでも応えていただきたいと期待するところであります。

かえりみますと、昭和も五十年の星霜を累ねるに至ったのでありますが、これは、我が国歴代元号の中で最長年代であるばかりでなく、国家的にも又国民的にも、且つて経験したことのない激動の時代であり世界が激しく揺り動いた時代であります。

このような激動期の初期即ち昭和十年二月十一日本町制を施行するまでに成長したのであります。

徳川時代延岡藩に属し、門川尾末、加草、庵川、川内の四カ村に分立していたものが、明治二十二年四月市町村制の施行により門川村に統合されてから八十六年を経過し、町制を施行してから四十年を迎えることとなったのであります。

町の面積は一一九、四二平方粁で、門川村として発足以来合併も分割もなく、ただ海岸区域の一部埋立てを除く外何等変るところはありませんが、人口についてみますと、明治二十五年七、六〇八人（一、三九〇世帯）昭和十年一二、九二〇（二、三二八）、昭和二十年一三、六二六（二、五四八）と増加して、昭和三十年一六、三二七（三、一一五）をピークとして、下降線をたどり三十八年から四十四年の間は一五、〇〇〇人台を上下するまでに落ちこんだのでありますが、四十五年頃から再び上昇し始め、昨年七月には一六、三〇三人と二十年ぶりに一六、〇〇〇人台を越え、十二月には一六、六七二（四、二九七）に及んだのであります。

県内大部分の市町村が人口減を嘆いているとき、本町が漸増の方向を示していることは町勢の伸展を物語るものと考えますが、一方今日のような厳しい情勢のもとに町制施行四十年を迎えることは極めて意義深いものがあると存じます。

町政の現況は生活環境、教育環境、産業基盤その他全般に亘り整備充実を図らなければならないとき、郷土発展の基礎を築かれた先輩諸賢のご労苦を偲び、その遺志を生かすことに心を新らたにすることこそ四十周年を迎える心構えでなければならないと思います。

時の流れは一刻の停滞もなく過ぎ去り、時代の波は一層激しく揺れ動く今日、明日を想定することは至難のことでありますが、要は一人一人がその本分を守り力強く生きて行くことが未来へつながつて行くものと思います。どうか皆さん本年も力一杯頑張って下さい

新年のごあいさつ

門川町議会議長
山本惣太郎

あけまして
おめでとうございます

今、ここに輝かしい陽光とともに希望と期待に満ちた昭和五十年を迎えられた皆さんに、謹んで新春のお慶びを申し上げます、とともに、本年もまたお互に健康で幸多き明るい年でありますよう祈念いたします。

時代の流れはいよいよ厳しく、今日における我が国の社会経済は国際経済のあおりをうけて大きく揺れ動き、政治の様相もますます困難性を加えてまいりました、ことに、一昨年来の産油諸国の原油供給削減、原油値上り等によるエネルギー資源の問題は、大きな影響を及ぼし、特に日本経済は石油ショックが尾をひきインフレを引越し、総需要抑制による工場閉鎖、失業者の増加等をもたらし、又中央政界では金脈問題、或は欧州においては、日本人青年による攪乱問題等と国の内外においても日本は不況の一年であったと思います。しかし、昨年末には三木新内閣も誕生しましたので当面する内政問題として政治、経済の各分野でこれらに対応する諸施策がとられるものと思います。

一方本町においても好むと好まざるにかかわらず、最近の社会経済の急激な変動は、あらゆる面に波及して、深刻化し、それを裏づけるかのように行政に対するところの住民の要望も増加し、複雑多様化して参りこれに対応する町政も又、一段と困難性を加えておりこれら住民の行政需要をみたすためには、高率的な行政執行が要請されるところであります。

かかる世相の中で議会に席をもつ私たちといたしましては、その責務の重、且つ大なることを一段と自覚して、今後の町政に取組んでいかなければならないと決意を新らたにしているところでございます。

いまさら申し上げるまでもなく、議会は住民を代表して、住民の意志を町政に伝え、反映させると共に、地方公共団体の意志決定機関として、諸政策について議決し、執行機関と、それぞれの権能、立場を尊重し理解しながら車の両輪の如く協力して行政に参画し、住民の信託に応えていかなければならない責務を負わされているのであります。

このような基本理念にたって、我々議会といたしましては、住民の生活及び文化の向上を福祉の増進を図るために、本町の立地条件や、特殊性を生かすような方向で審議し、検討を加えて、執行当局と共に互に協力して、その実現に努めて参ったのでありますが、今後共に、このような態勢は更に維持され、強化されてゆかなければならないものでありまして、議員各位ともそのことは、充分認識いたし、明るく、豊かな、住みよい郷土づくりのため執行当局と一体となって、より一層の努力をしてまいりたい所存でございます。

特に、本町は、新産都市の中枢地区としての計画的な地域開発によって都市化への要素を持ち道路交通網の整備と相俟って、同一経済生活圏域との広域的行政の推進が強く望まれているところであります。

又門川湾の対岸には、各種工場が存在し昨年末にはクロロセン工場も営業を開始し今後、尚、日向燃料、東洋ゴム、旭化成等、大企業進出に伴い地理的条件からして、住民の生活環境を守る諸問題にも取組んでおります。

私たちは、いかなる事態にも対処して行くため、本町の現況を適確に把握し、住民意思が奈辺にあるかを洞察して公正なる判断と、良識をもつてそれを町政に反映させ、執行当局と共に相携えて本町発展と住民福祉の向上のため、尚一層の努力をしてまいりたいと決意を新たにし、平和で明るい、わが門川町が更に躍進し、繁栄すると共に皆さまにとりましても最良の年でありますよう、祈念して新年のごあいさつといたします。

民生（児童）委員が改選されました

民生(児童)委員の任期三ケ年）が去る十一月三十日で満了し昭和四十九年十二月一日付で新しく左記二十九名の方々が厚生大臣より委嘱をうけられ、本町の住民福祉の向上のため、ご協力をいただくようになりましたのでお知らせいたします

尚、民生(児童)委員の委嘱につきましては民生委員法に基き、市町村民生委員推せん委員会で推せんされた方々を県の審査会の意見をきいて知事が厚生大臣へ推せんし、厚生大臣が委嘱するようになっております

記

民生児童委員名

担当地区	民生児童委員名
松瀬	井野内五一郎
三ケ瀬	松本　孝
上井野	川内田智弘
大内原	右今アキエ
小松	柴田　重喜
大丸	宮田　育郎
園	城屋敷　昇
五十鈴城	金丸　丑蔵
平城	米良　喜勝
中山	金丸　茂雄
南町	河野　重利
上の町	黒木　春若
本町	久保　一
東栄町	安田　文市
西栄町	今村　富士
橋の口	西村八重子
栄ケ丘	小林　嘉八
竹名	栗田　一雄
上納屋三区	今西　麒太郎
〃　三区	赤沢　哲二
旭町	後藤　政美
尾末東	青石英一郎
後向	日高藤一郎
中尾	中田　トキ
下納屋	請関　平八
中村	安藤　峰子
加草	岩田　馨
加草三区	横井　三好
四五区	永田　敦美
庵川西	
谷の山	
庵川東	
牧山	

昭和五十年度 保育所入園児申込受付中!!

昭和五十年四月から保育所に入園希望の方は左記により申込書を提出下さるようお知らせ致します。

記

一、**申込受付期間**
一月十日から二月十五日まで

二、**申込書提出先**
各通園区域保育所
但し、平城保育所通園区域は中央保育所へ提出下さい。

三、**申込書**（用紙）
各保育所に準備してあります。

四、**定員並通園区域**

草川保育所　六〇名
（草川校区、中村を除く）
門川保育所　九〇名
（漁村地区、従来通り）
中央保育所　九〇名
（竹名、中村、東栄町、本町地区）
平城保育所　一二〇名
（建築中）
（平城、中山、栄ケ丘、西栄町地区）
五十鈴保育所　一二〇名
（小松、小園、城屋敷、五十鈴、南町、上の町地区）
西門川児童館　三〇名
（西門川地区）
計五一〇名

※五十年度から平城保育所（建築中）が開園予定ですので通園区域が多少変ります。

※保育所入所の基準や、記入要綱は申込書用紙に記されておりますのでよく読んでいただき、間違いのないようお願いいたします。

尚不明の点は各保育所又は役場住民課へお問い合せ下さい。

河川の美化　不用ビニールは焼却しましょう

消防始式の御案内

新春劈頭を飾る恒例の本町消防始式を、左記により行ないます。

最近の消防もその内容、施設面においても相当充実して来てはおりますが、それに増して、火災の対象物も又多様化しているため、一旦火災が発生すると大火につながるケースが多くなっています。

消防業務については言うまでもなく、消防団と地元住民とが一体となって始めて自治体消防としての意義もあると思います。

町民の皆さんも消防始式において本町消防団の全容を見ていただくとともに、地元消防の志気高揚の御声援願いたいと思います。

記

一、とき　昭和五十年一月四日　午前八時

二、式　開式　正午　閉式

三、場所　尾末漁協北側埋立地

はい　こちらは　門川派出所です

◎正月の交通事故を防ごう

正月は家族づれで帰省したり、友達同士でドライブに出かける機会が多く、つい無理な日程を消化しようとして、ふだんと違った長距離運転ということになります。

また正月は年始あいさつなどで人や車の往来がはげしくなる一方飲酒の機会が多くなってまいります。さらに寒さがきびしくなると歩行者は、防寒具を身につけることにより、動きが鈍く、防寒具のえりを立てるため、車の接近に気づきにくくなります。

このため重大事故の発生が多くなります。そこで、とくに次のようなことに十分注意して正月の交通事故を防ぎましょう。

一、スリップによる追突事故を防ごう。

積雪や路面の凍結によって思わぬスリップによる追突、横転等の交通事故が発生します。

また、車内暖房を使用する関係から窓ガラスを閉めきるために、窓ガラスがくもって視野が悪くなりますので時々窓ガラスを開けて新鮮な空気と入れかえるようにしてください。

二、飲酒運転は絶対にやめましょう。

酒を飲んで車を運転すると、運転操作が荒くなり、誤った動作も平気でするようになります。また、速度感覚がなくなり夜はとくに視力がおとろえますので極めて危険で重傷死亡事故など大きな事故を起すことになります。一滴でも酒を飲んだら運転は絶対やめましょう。また、運転する人に酒を提供したり、酒を飲むことをすすめることも法律で禁止されています

三、いねむり運転の事故を防ごう。

混雑のはげしい道路から交通量の少い道路に出たときとか、長時間の運転で目的地に近づいたときなどは気分のゆるみなどから、いねむり運転による事故がとくに多く発生しております。

このような場合に次のことをぜひ実行してください。

㈠長距離を走る時には、一時間半から二時間置きに休みをとること。

㈡車の窓を開いて新鮮な空気を入れること。

㈢助手席に座る人がアクビをして眠ってしまうと、運転している人に眠気が移りがちです。助手席の人はこの点十分気をつけること。

㈣眠くなったら安全な場所に、車を止めて思い切ってひと眠りすること。

昭和五十年度　新入学児童調査について

該当児童

昭和四十三年四月二日より昭和四十四年四月一日までに生まれた者

昭和五十年度の新入学児童につきましては、住民基本台帳により調査し、只今左記の通り名簿作成中であります。転入、転出、その他調査の時点などの関係で調査もれ、住所、氏名（文字）のあやまりのある場合は当教育委員会宛早目にご連絡くださるようお願いします。

入学式は四月上旬になります。その間一月下旬から二月下旬にかけて新入学児童の健康診断と知能検査を実施いたしますが、その期日については、後日保護者宛お知らせいたします。

尚身体その他の事情で本年度入学が困難である場合は、就学猶予、免除、養護学校（施設）への手続き等についてご相談したいと存じますので、教育委員会までおいで下さい。

児童氏名	保護者氏名
松瀬 本田	正光
本田 富美	契雄
三ケ瀬 志田	弘子
寺原	裕二
出口	勝
本田 勇作	健
本田みゆき	速美
上井野 猪倉	早霧
斉藤	徳子
吉田	英信
大内原 神井	俊則
滝本智恵子	ケサ子
滝下	盛光
松本	和雄
松本 明美	岩人
小松 岩切	邦彦
徹	哲郎
小谷タキ子	照央
古谷 和幸	正純
柴田 宗人	俊溥
峰 伸行	尊幸
小園 柏田	重喜
美穂	隆夫
黒木 瑞恵	クニ子
三浦 浩二	生吾
柳田 優一	畩行
城屋敷	征優
金田 智	鶴雄
白木 潤	洋
米良 直美	稔
米良 直広	元茂
米良 隆治	茂志
米良ハルミ	豪
米良 美穂	政美
安田 達雄	恭一
安田 隆夫	寿生
安田 美佐	県
中山 金丸ユカリ	靖
竹名 篠塚 里佳	昭一郎
中村 美佳	認
五十鈴 安部 京子	栄
尾形八州士	進
金丸 悦子	国光
甲斐 正広	龍男
金丸 直美	年春
黒木 亮子	敬次
黒木 宣宏	紘一
小島由美子	幸弘
白木 悦子	昱
樋口 和代	貴美雄
松村 達也	博澄
水永 嘉子	嘉彦
米良 浩志	友義
米良 順子	昭平
矢野 英明	利雄
吉田 浩樹	利治
南町 池田美和子	宗直
加藤 佳子	真実
金丸めぐみ	一弘
金丸 修	清光
金丸 美樹	謙司
黒木 真二	利男
黒田 二郎	浩次郎
橋口 一郎	義治
福島 浩美	寛喜
松本 浩	勢一
柳田 嘉弘	輝勝
上の町 伊藤 幸成	月美
岩切智恵美	清歳
金丸 博史	亀
河野 夏樹	信一
川崎 茂樹	浩志
粕田 久美	国広
黒木千代美	文雄
是沢 真理	力
千草建士郎	力生
長友 勝美	栄ケ丘 米良 直美
福永美保子	矢野 保彦
丸山 昌子	山下 隆
佐藤 寛	横川 祐子
安田 佳子	中原 安子
吉田 政代	米良 俊幸
吉田 尚子	晴利
吉村けい子	学
本町 黒木 文代	幸男
重黒木裕見子	勇
高木 徹	下納屋 白木 正之
中村 英徳	田中 友彦
林 浩一	奈須 千裕
松井 優子	水野ゆかり
吉田八千代	柳田 達也
東栄町 池辺 幸代	平城東 児玉 裕子
池田 和幸	長者明紀子
海野 敦子	浜田 裕平
岡元 雅子	米良 明子
黒木 亟子	直野 武
安田 志乃	平城西 浅沼 晃司
桑原 教輔	安藤 卓広
小林 裕信	江藤 康子
近藤智寿子	大津 健児
是沢 法子	大津圭一郎
幸森 美穂	河野 弘次
児玉 浩二	佐伯 直美
佐藤 紀子	花岡 美紀
坂元 浩二	細山田美枝
斉藤 美洋	山崎 悦子
佐藤 幸治	吉田 一仁
椎原 美樹	中村 井川 尚幸
下田 美奈	小田 真里
田中 豊和	高橋 靖行
中浜 幸一	加草一区 佐藤 順子
西 康規	中野 英幸
原田 道代	日吉 茂徳
日高 大	藤本 孝
堀江喜久子	加草二区 安藤 禎浩
本田 留美	安藤 恭子
米田 憲正	請関 初美
明才地真美	緒方 憲一
元井 尚子	柏田 禎一
西栄町 河野 由美	種子田敬子
河野 裕子	津島 理枝
北川 寛子	寺田美保子
黒木 美和	原田 芳香
神戸希生子	松崎 靖
佐野 裕三	牧野美奈子
田端 浩一	加草三区 大森 貴子
年森 郁男	小川 伸一
中村 清	浜田 祐子
橋口 美幸	浜田美穂子
浜口 浩	堀上 優子
本田由紀子	加草四区 請関 菊代
松田 智恵	請関 誠世
金丸 博	金丸 治子
金川真由美	黒木美代子
千草ルミ	柳田 晴美
加草五区 山本 富生	吉田 善夫
庵川西 黒木 道明	黒木 美穂
黒木 光孝	久保崎和久
椎葉 千鶴	奈須まゆみ
浜田 秀代	松田 清
松田 能典	山田 珠美
山田 義信	安田 智恵
安田 康一	米木 龍一
和田由加里	庵川東 小川 正人
黒木 睦美	黒木 隼人
山下 力	米沢あけみ
牧山 黒木 晃実	永田 百明
永田 美幸	谷の山 高橋 浩二
高橋真理子	勘一
勝好	高美
敏夫	カズ子
勝	茂
惣四郎	勝
能夫	光義
鷹俊	秋芳
康雄	棟彦
敏夫	朝吉
利夫	幸敏
強	千富
真紀子	床
茂	光年
二三芳	和雄
幸敏	強
浜田 秀代	松田 能典
山田 珠美	山田 義信
安田 智恵	安田 康一
米木 龍一	和田由加里
椎葉 千鶴	久保崎和久
奈須まゆみ	黒木 光孝
黒木 美穂	柳田 達也
平城東 児玉 裕子	長者明紀子
浜田 裕平	米良 明子
直野 武	平城西 浅沼 晃司
安藤 卓広	江藤 康子
大津 健児	大津圭一郎
河野 弘次	佐伯 直美
花岡 美紀	細山田美枝
山崎 悦子	吉田 一仁
中村 井川 尚幸	小田 真里
高橋 靖行	加草一区 佐藤 順子
中野 英幸	日吉 茂徳
藤本 孝	加草二区 安藤 禎浩
安藤 恭子	請関 初美
緒方 憲一	柏田 禎一
種子田敬子	津島 理枝
寺田美保子	原田 芳香
松崎 靖	牧野美奈子
加草三区 大森 貴子	小川 伸一
浜田 祐子	浜田美穂子
堀上 優子	加草四区 請関 菊代
請関 誠世	金丸 治子
金川真由美	黒木美代子
千草ルミ	柳田 晴美
加草五区 山本 富生	吉田 善夫
庵川西 黒木 道明	黒木 美穂
黒木 光孝	久保崎和久
椎葉 千鶴	奈須まゆみ
浜田 秀代	松田 清
松田 能典	山田 珠美
山田 義信	安田 智恵
安田 康一	米木 龍一
和田由加里	庵川東 小川 正人
黒木 睦美	黒木 隼人
山下 力	米沢あけみ
牧山 黒木 晃実	永田 百明
永田 美幸	谷の山 高橋 浩二
高橋真理子	勘一
勝好	高美
敏夫	カズ子
勝	茂
惣四郎	勝
能夫	光義
鷹俊	秋芳
康雄	棟彦
敏夫	朝吉
利夫	幸敏
強	千富
真紀子	床
茂	光年
二三芳	和雄
幸敏	強
浜田 秀代	松田 能典
山田 珠美	山田 義信
安田 智恵	安田 康一
米木 龍一	和田由加里
椎葉 千鶴	久保崎和久
奈須まゆみ	黒木 光孝
黒木 美穂	柳田 達也
平城東 児玉 裕子	長者明紀子
浜田 裕平	米良 明子
直野 武	平城西 浅沼 晃司
安藤 卓広	江藤 康子
大津 健児	大津圭一郎
河野 弘次	佐伯 直美
花岡 美紀	細山田美枝
山崎 悦子	吉田 一仁
中村 井川 尚幸	小田 真里
高橋 靖行	加草一区 佐藤 順子
中野 英幸	日吉 茂徳
藤本 孝	加草二区 安藤 禎浩
安藤 恭子	請関 初美
緒方 憲一	柏田 禎一
種子田敬子	津島 理枝
寺田美保子	原田 芳香
松崎 靖	牧野美奈子
加草三区 大森 貴子	小川 伸一
浜田 祐子	浜田美穂子
堀上 優子	加草四区 請関 菊代
請関 誠世	金丸 治子
金川真由美	黒木美代子
千草ルミ	柳田 晴美
加草五区 山本 富生	吉田 善夫
庵川西 黒木 道明	黒木 美穂
黒木 光孝	久保崎和久
椎葉 千鶴	奈須まゆみ
浜田 秀代	松田 清
松田 能典	山田 珠美
山田 義信	安田 智恵
安田 康一	米木 龍一
和田由加里	庵川東 小川 正人
黒木 睦美	黒木 隼人
山下 力	米沢あけみ
牧山 黒木 晃実	永田 百明
永田 美幸	谷の山 高橋 浩二
高橋真理子	勘一
勝好	高美
敏夫	カズ子
勝	茂
惣四郎	勝
能夫	光義
鷹俊	秋芳
康雄	棟彦
敏夫	朝吉
利夫	幸敏
強	千富
真紀子	床
茂	光年
二三芳	和雄
幸敏	強

男子　一三〇名
女子　一三七名
合計　二六七名

寄附お礼

東栄町、野間口　幸殿には、門川町駅前の米良重富様方にて、門川ヘルストロン電器治療所を開業されまして、住民の皆様方の健康増進に寄与されています。

このたび住民福祉のために役立てて下さいと一金参万円の寄附を戴きました。こゝに厚くお礼を申しあげますと共に、その志にそい有効に活用させていただきます。

睦会代表、黒木森治殿は社会福祉事業に使用して下さいと一金弐万円也を寄附されました。こゝに厚くお礼申し上げますと共に、会の発展をお祈り申し上げます。

社会福祉法人
門川町社会福祉協議会

戸籍の窓

出生おめでとう

子の氏名	父母の名	住所
郡	玲俊	義博 牧山
長田	秀一	佐平治 大内原
奈須	清香	裕幸 平城西
斉藤	千織	尊王 〃
江藤	安代	勇一 〃
小野	直樹	幹男 上井野
吉田	志保	了一 〃
和田久美子		正雪 旭町
安田	智子	隆憲 小園
金川	和泉	昭英 加草四
中村	嘉教	認 竹名
山田ゆかり		孝雄 牧山
安田	正八	功 庵川西
黒木あけみ		〃
田中	義昭	巧 城屋敷
松村由佳子		博澄 五十鈴
松井	英郎	徹郎 本町
早瀬	賢作	真澄 上井野
山本	倫子	憲一 東栄町
松川	博文	哲郎 五十鈴
右松美由紀		義広 牧山
奈須	純一	繁春 平城西
松本	義明	義勝 加草二
藤島洋一郎		保夫 上納屋
黒木	典	靖男 小園
岩本〉孝臣		幸光 南町

ご結婚おめでとう

本田	秀明	上ノ町
佐々木千津代		〃
池田	保	中尾
甲斐	瑞枝	本町
寺原	久規	西栄町
田口	和代	延岡市
赤沢	安彦	中尾
田原てい子		日向市
吉田	耕一	竹名
松葉	千尋	太内原
奈須	義仁	旭町
桂本カヤノ		庵川東
姫野	勝彦	本町
水永	範代	上ノ町
早川	則	小園
吉岡	江譲	北九州
蔵田	広秋	中村
安田	智穂	福岡県
後藤	安夫	上納屋
楯	いく子	佐土原
安田	豊	庵川西
小川	トヨノ	庵川東
小川	洋二	上納屋
石田	郁子	日向市
黒木	利昭	庵川東
高見佐	智子	延岡市
山下	伸一郎	大内原
黒木多	鶴子	旭町
滝本	史郎	大内原
若松	芳子	西栄町
重黒木	幸一	大内原
福丸	恵美子	日向市

ごめい福を祈る

死亡者氏名	年令	住所
長崎 清	76	西栄町
黒木 寿助	92	庵川東
河野 記内	74	竹名
久保 良蔵	87	東栄町
日吉 秀一	3	加草一
黒木 金蔵	69	小園
吉田 春芳	58	上ノ町
水永 勝衛	80	東栄町
神戸 進	57	後向
松田 尚幸	37	松瀬
男	84	老人ホーム
	85	病院

香典返しお礼

上の町　故吉田　春芳殿
東栄町　故久保　良蔵殿
西栄町　故水永キヤウ殿
加草四区故請関末四郎殿
下納屋　故日高　又市殿

右の方々には、不幸にして、ご逝去なされ、喪主の方より香典返しとして、金一封を社会福祉事業にと、ご寄贈いただきました。

ここに厚くお礼申し上げますと共に、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます

尚使途につきましては、その主旨にそいまして、社会福祉事業に活用させて、頂きたいと存じます

一金参万円　吉田　節郎殿
一金五万円　久保　一殿
一金参万円　水永　静善殿
一金参万円　請関　金敏殿
一金弐万円　日高　好美殿

社会福祉法人
門川町社会福祉協議会

12月1日現在

世帯数	人口 男	人口 女	計
4.308	7.931	8.741	16.672
(4.287)	(7.895)	(8.704)	(16.599)

（　）内は前月です

焼却しよう……不用ビニールは